

# 平成23年度江戸川区子ども・子育て応援会議 議 事 要 旨

---

日 時 平成23年7月13日（水） 午後3時から  
場 所 グリーンパレス 芙蓉  
事 務 局 子ども家庭部子育て支援課

## 【議 事】

1. 子ども家庭部長あいさつ
2. 委員委嘱
3. 子育て支援の実施状況
4. 意見交換

## 【配布資料】

江戸川区子ども・子育て応援会議設置要綱

江戸川区の子育て支援

江戸川区子ども・子育て応援会議 委員名簿

	所属機関・役職名	氏 名	備考
1	お茶の水女子大学教授 江戸川総合人生大学子ども支援学科学科長	三輪 建二	委員長
2	民生・児童委員協議会 東部第二地区会長	金子 敏枝	
3	青少年育成地区委員長会会長	田中 稔家	副委員長
4	青少年委員会会長	宮本 道子	
5	江戸川区私立幼稚園協会会長	田澤 茂	
6	江戸川区私立保育園園長会会長	秋山 秀阿	【欠席】 代理 荒木 直也 江戸川区私立保育園園長会 事務局次長
7	江戸川区立小学校長会会長	青木 勉	
8	江戸川区立中学校長会会長	神田 茂	欠席
9	江戸川区医師会理事	森 照男	
10	江戸川区歯科医師会副会長	古川 隆彦	【欠席】代理 瀬谷 絹子 江戸川区歯科医師会事務長
11	東京商工会議所江戸川支部会長	平田 善信	
12	青少年育成アドバイザー	山本 又三	
13	江戸川区私立幼稚園協会 PTA 連合会会長	高橋美枝子	
14	江戸川区私立保育園保護者連絡協議会理事長	長尾 良子	
15	江戸川区立小学校 PTA 連絡協議会会長	田島 弘資	
16	江戸川区立中学校 PTA 連絡協議会会長	中岡 宏経	
17	公募区民	岩楯 松江	
18	公募区民	仁志川 明美	
19	健康部長	渡辺 浩	
20	子ども家庭部長	畔柳 文泰	

## 議事要旨

### 1 子ども家庭部長あいさつ

(事務局) ただいまから江戸川区子ども・子育て応援会議を開催させていただきます。本日は、新たな任期での最初の委員会ですので、委員長が選任されるまで進行役を事務局のほうで務めさせていただきます。私は、事務局の子ども家庭部子育て支援課長の岩瀬でございます。よろしくお願いいたします。

議事に先立ちまして、お手元の資料をご確認ください。まず委員の皆様の席上に江戸川区子ども・子育て応援会議の委嘱状を置かせていただいています。ほかにレジュメ、委員名簿、江戸川区子ども・子育て応援会議設置要綱、それと資料「江戸川区の子育て支援」です。皆様、資料はそろっていますでしょうか。

(一同) はい。

(事務局) それでは、会議設置の趣旨と目的の説明を兼ねまして、子ども家庭部長よりごあいさつと委嘱内容についてのご説明をさせていただきます。

(子ども家庭部長) 皆様、改めましてこんにちは。子ども家庭部長をこの4月から務めさせていただきます。初めてお目にかかる方もいらっしゃるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

既にご承知かと思いますが、この子ども・子育て応援会議は平成21年度から発足をしています。会議の趣旨ですが、江戸川区では、子どもさんが健やかに育つため、それから子育てを地域社会で支えていこうということで、様々な施策を展開していますが、そうした施策をより効果的に、それから総合的に実施していくにはどうしたらいいだろうかということについて示唆をいただく、ということで始まった会議です。

任期ですが、21年から2年間ということで実施をさせていただきまして、ちょうど今年の7月に2年の任期を迎えました。それに先立ちまして、今年の3月15日に子ども・子育て応援会議を予定していましたが、御承知のとおり3月11日に東日本大震災が発生しまして、皆様のご了解を得ながら、日にちを繰り延べさせていただき、本日会議を開催させていただいたという経緯になります。任期をまたいで、第2期目の任期に入ったところですので、これも皆様にお話をさせていただき、引き続き会議のメンバーとして加わっていただくということでお願いをしています。本日委嘱状を皆様の机の上に置かせていただきました。このような経緯がありますので、会議の趣旨と任期等につきましてはご了承をお願いしたいと思っております。

さて、最近の子育てをめぐる状況ですが、日本全国でもよく言われているように、少子化が急速に進んでいる状況です。江戸川区は若い区であると言われてきていますが、この4月1日現在の0歳から5歳、いわゆる乳幼児人口

は3万8,898人、4万人を割っているという状況で、こちらは平成17年をピークに、6年連続して減っています。もう少し対象を広げて、ゼロ歳から14歳、いわゆる年少人口は23年で9万7,947人と絶対数は多いのですが、平成21年をピークにして、こちらも2年連続して減少していますので、将来的に見れば、年少人口それから乳幼児人口も日本全国の傾向に漏れず江戸川区も減少していくのではないかと、このように感じています。

そういう状況ですが、子育てに関する施策は縮小していくかということ、逆にそうはならず、むしろ多様化したり、より困難化するというような傾向にあると思っています。そうしたケースについて、引き続き委員の皆様のお知恵を拝借しながら、江戸川区の子育て、あるいは子育て支援の施策に反映をさせていきたい、と思っていますので、引き続きよろしく願いいたします。

## 2 委員委嘱

(事務局) それでは、この会議の委員の皆様をご紹介します。

### －委員の紹介－

(事務局) 委員の紹介は以上です。また、事務局として子育て支援課、保育課、児童女性課の課長やスタッフが出席していますので、よろしく願いいたします。

続いて、委員長を選任に入らせていただきます。委員長は、設置要綱に基づきますと委員の互選により選出することとなっています。皆様がよろしければ事務局から提案させていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

(一同) 賛成です。

(事務局) 異議がないようですので、提案させていただきます。お茶の水女子大学で教鞭をとられるとともに、江戸川総合人生大学設立時より子ども支援学科長として地域の子育てを支える人材育成にも力を注いでいらっしゃいます三輪建二委員に、前期に引き続き委員長をお引き受けいただきたいと考えていますが、よろしいでしょうか。

(一同) 賛成です。

(事務局) 異議がないようですから、委員長は三輪委員に決めさせていただきます。どうぞ委員長席にお移り願います。

それでは、三輪委員長、ごあいさつをお願いします。

(三輪委員長) ただいまご紹介いただいた三輪といいます。平成21年の最初の子ども・子育て応援会議から出席をさせていただきました。その中で、例えば臨時で女性の委員から子育てについての率直な意見をうかがったり、議論のまとめ等にもかかわってきました。それから、私は中野区民なのですが、江戸川区の様々な施策を勉強したりして、とても有意義な2年間だったと思います。

私は、江戸川総合人生大学の子ども支援学科にかかわっていきまして、もう7年目に入ります。一つご紹介したいことがあるのですが、私の肩書は現在、

子ども支援学科長となっておりますが、この平成23年入学の第8期生から学科名が子ども・子育て応援学科になります。この名称は、熱心に学生が議論をして、「子どもを支援するだけでなく、子育てに悩みを抱えている親たちにもかかわりたい」「それなら“子ども・子育て”だね」となり、また、支援というとなんか困っているから支えてあげようとなりますが、主役は子どもであり、子育てをする人たちであるわけなので、江戸川総合人生大学の学生たちは「ボランティアという形で応援をしたい」という議論がありました。そしてこの会議の名前を見たらまさにそのものだった訳で、建設的に借用させていただきました。また引き続きいろいろな意見交換を積み重ねていきたいと思っております。

(事務局) では、この後は委員長に議事を進めていただきたいと思います。

(三輪委員長) それではバトンタッチさせていただきます。会の運営に当たって何点か前もって決めておきたいことがあります。1点目は、副委員長です。要綱を確認しますと、副委員長は私が指名をしてもいいということのようですので、私のほうで指名させていただければと思います。前期に引き続きまして、青少年育成地区委員会会長でいらっしゃいます田中稔家委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(一 同) 賛成です。

(三輪委員長) それでは、引き続き副委員長をお願いするということで、田中委員、こちらに移っていただければと思います。

それでは、一言ごあいさつをお願いします。

(田中副委員長) 大変な役を承ったわけですが、地区委員会と言えば、町会、青少年委員、子ども会、学校、PTA等、青少年育成に関わる方々が集まり、地域の中で子どもたちをどう育成していくかということを考え、活動しています。行政の施策と相まって、地域の中でそれをどう進めるか、そして地域の皆さんの協力をどう得るかということを中心に考えています。保護者の方々と一緒に地域で広げていく、そういう役割が少しでもできればと思ひまして、皆さんと一緒に考えていきたいなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(三輪委員長) では、次は会の運営についてですが、事務局と皆様に確認をしたいと思ひます。会議の開催についてですが、初めから日程を決めるというよりは、事務局からその時々状況をご報告いただいて、必要に応じて私が招集をお願いするという進め方を考えていますが、その方向でよろしいでしょうか。

(一 同) 賛成です。

(三輪委員長) 特に異存がないようです。事務局はそれでよろしいでしょうか。

(事務局) それで結構です。

(三輪委員長) 次に会議の議事をどのようにオープンにしていくかという問題があります。幾つかの選択肢があつて、会そのものを公開するというやり方と、議事録を公開するというやり方があると思ひます。この子ども・子育て応援会議の性

格から、公表しにくいテーマをこの場だけでという形で議論することもあるかもしれません。そういうことから考えると、会の議事録をホームページで公開するという方法がいいかなと思います。議事録については、私がきちんとチェックをいたしますので、会の議事録をホームページで公表するという進め方でよろしいでしょうか。

(一 同) 賛成です。

(三輪委員長) 特に異議がないようですので、そのようにしたいと思います。

### 3 江戸川区の子どもと子育て支援の現状等

(三輪委員長) それでは、議事に入りたいと思います。今日は、大きく二つの議事がありまして、初めに子育て支援の実施状況について、二つ目が皆さんとの意見交換ということになります。意見交換は自己紹介を含めてということになりますので、今から少しずつご準備をいただければと思います。

では初めに、皆様と江戸川区の子育て支援の現状がどうなっているのかを確認する時間にしたいと思います。事務局で用意しているものがあるので、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局) まず、えどがわ区民ニュース「子どもはまちの宝～地域で支えあう江戸川区の子育て～」をご覧ください。約20分です。ご覧になった方がいらっしゃるかと思いますが、改めて確認の意味でお時間をいただければと思います。その後簡単に今年度の新規拡充施策等についてお話をさせていただきます。よろしくをお願いいたします。

－ビデオ上映－

(事務局) ビデオは以上です。

それでは、お手元の「江戸川区の子育て支援」の冊子をご覧ください。こちらを説明させていただきます。

1 ページは、平成23年度の子育て支援、新規拡充事業です。

私立保育園の新設ですが、4月1日時点の待機児童数は今年は272名で、去年が295名でしたので、23名減少し、若干緩和されています。今後も待機児童の解消のため、平成24年度に向けて私立保育園や認証保育所の新設等を行います。今具体化しているのが、定員120名ほどの私立保育園1園の新設です。また、認証保育所ですが、この4月に1園開園し、10月にも1園の開設が具体化しています、それぞれ待機児童が多い葛西地区での開設です。

続いて、一時保育事業です。一時保育事業についても充実を図っています。一時保育事業は保育所を利用していない家庭で、保護者の通院、介護、学校行事への参加、またはリフレッシュ等で一時的に保育が必要になったときに私立保育園で保育を行うというものです。23年度にはこれまで7園だったも

のが2園増えて、9園での実施となります。この2園については、船堀地区に1園、東部地区に1園、各2名の定員です。全体では22名の定員となります。なお、保護者の入院などで緊急で保育が必要となった場合には、区立保育園全園において、緊急一時保育を実施しているところです。

続きまして病後児保育事業ですが、これも年々充実させています。病気の回復期に、集団生活が困難な子どもを医療機関の付帯施設で保育する事業に対して補助を行っています。保護者への子育て支援と児童の健全な育成を図るという目的で実施しています。平成23年度は、3か所から5か所に、2か所増やすことができました。篠崎地域に1施設開設済みで、葛西地区に1施設、10月に開設予定で、どちらも定員は4名です。

また、全くの新規事業でショートステイ事業委託を7月からスタートしました。セーフティーネットとして、保護者が病気、出産、家族の介護、冠婚葬祭、就労などの理由で、家庭で一時的に児童の養育ができない場合、児童養護施設、母子生活支援施設で一定期間養育、保護を行う事業で、具体的にはそよ風松島荘で、区内在住の2歳以上12歳以下の健康な児童を対象に実施します。施設の関係で、定員は1名になります。

続きまして、8ページをご覧ください。先ほどのビデオと重なる部分もありますが、江戸川区の特徴ある施策を簡単にピックアップしてご紹介します。

江戸川区の子育て支援に対する考え方は、「子どもの視点に立って」「子どもの成長に合わせ連続性を保つ」ということで、その方法として、民間活力や地域力等を活用していくというものです。特に保育ママ、乳児養育手当、子育てひろば、私立幼稚園等保護者負担軽減補助、すくすくスクールと学童クラブ、チャレンジ・ザ・ドリーム等が、江戸川区の子育て支援事業を象徴する事業となっています。

また、ご承知の方も多いと思いますが、江戸川区の考え方には、人間形成に大切な乳児期には、親の温もりとスキンシップが欠かせないというものがあります。こうしたことから、区立保育園ではゼロ歳児保育は行っていません。そこで、保育ママ制度では、保護者が働いていたり、病気などで、ご家庭で保育が困難なお子さんを保護者にかわって保育ママが家庭的な愛情と環境のもとでお預かりするという江戸川区独自の制度を行っています。

また、乳児養育手当ですが、所得制限はありますが、ご家庭で乳児を育てている家庭に月額1万3,000円の手当を支給して、家庭での保育を支援しています。

子育てひろばは、区内で20カ所あります。就学前の乳幼児と保護者が自由に遊び、交流できる場です。また、保護者同士の情報交換や相談し合えるスペースにもなっています。

私立幼稚園等保護者負担軽減補助ですが、これは、幼児教育は私立に依存するという区の方針のもとに、区立幼稚園の保育料との格差是正のために補

助しているもので、全国一という補助となっています。

次に、すくすくスクールと学童クラブですが、先ほどビデオにあったとおり、すべての小学校に設置しています。今、国では学童保育の待機児童をゼロにするということでいろいろ施策を打っていますが、江戸川区は既にゼロということになります。運営については、世代を超えた地域の皆様がサポーターとなり、各すくすくスクールで、活発に自分の持っている特技等を生かして子どもたちを支援されており、江戸川区の地域力が十分に活用されている施策ではないかと思えます。この事業には、全国から視察が来ていて、隣国の韓国からも政府関係者等が視察に見えています。

また、中学生が対象になりますが、チャレンジ・ザ・ドリームという事業があります。これは、中学2年生が全員5日間の職場体験をするということで、多くの受け入れ企業の協力があって実施されています。多くの大人と触れ合い、コミュニケーション能力、社会性や思いやりの心を育み、また、様々な生き方に自分自身の将来を真剣に考えるとともに、望ましい就労観を育て、自分の進路を選択、決定する力を身につけることを目的に実施されています。特徴は5日間という長い期間に及ぶ職場体験であるということです。生徒は4日目あたりからがらりと変わるということや、実社会での体験を直接心と体で受けとめることが人格形成に大きな影響を及ぼしているに違いないということ等、企業主の方々から様々なお話をうかがっています。協力してくださる企業の方々の、子どもたちにかける温かい愛情のたまものではないかと思えます。

以上、大変駆け足で説明させていただきましたが、14ページ以降にも様々な子育て支援事業を掲載していますし、江戸川区の子どもの状況、人口とか予算とか、様々な情報をこの1冊にまとめていますので、後ほどご覧いただければと思います。

(三輪委員長) ありがとうございます。

#### 4 子育て支援や子育てをめぐる環境等についての意見交換

(三輪委員長) それでは、2番目の議題の意見交換に移りたいと思います。

今の説明、ビデオを見て、また日ごろ仕事を通じて、あるいは子育てにかかわりながら委員として出席いただいていますので、自己紹介を兼ねて1人ずつご意見やお考えをお話しいただければと思います。

(金子委員) 皆様初めまして。東部第二地区民生・児童委員の金子といいます。

私たちは、日ごろより地域の中で子育て支援の活動も含めて、様々な相談に取り組んでいます。この会議は、初めてで何の知識もないものですから、これから皆さんに教えていただいて、今後私たち、民生委員の活動につなげ

ていけたらありがたいなと思っています。どうぞこれからもよろしく願い  
いたします。

(宮本委員) 青少年委員会の会長を務めさせていただいています宮本です。前期に引き  
続き、今期も委員を引き受けさせていただくことになりました。どうぞよろ  
しく願いします。

私たち青少年委員ですが、地区委員長から推薦を受けて、区長から委嘱を  
受けて、子どもたちの健全育成にかかわる団体の皆様とともに活動をしてい  
ます。青少年委員という名前のように、どちらかというと本当に小さいお子  
様というよりは、小学生、中学生、そして高校生ぐらいまでを対象にした活  
動を展開しています。

現在健全育成にかかわる団体は、学校PTAの皆様、そして子ども会の皆  
様ですが、区の施策で先ほど出ていたすすくスクールへの支援、そして区  
の中学生、高校生の居場所事業の共育プラザにもしっかりとかかわってい  
ただいています。江戸川区の子どもたちが自信や思いやりを持って育てほし  
いという思いを込めて活動していますので、どうぞよろしく願いします。

(荒木委員) 改めましてこんにちは。先ほどVTRにありました餅つき大会を行って  
いた光徳保育園の秋山園長が正式な委員ですが、今日は代理で参加させてい  
ただいています。私自身はJR小岩駅近くのつぼみ保育園を営んでおります。

保育園は、簡単に言えば働くお父さんやお母さんからお子さんをお預かり  
するという仕事です。その働くお父さんやお母さんをどのように支えていく  
かということを常日頃悩みながら考えています。果たして本当に保育園と保  
護者の間だけで解決し得る問題なのか。それとも社会全体の労働環境等まで  
きちんと視野に入れて対策をとらなければならない問題なのか、そんなこと  
を考えています。皆様から貴重なアドバイスをいただければ、今後の私自身  
の仕事の励みにもなると思います。

(森委員) 江戸川区医師会を代表して参りました、森と申します。

団体の性質上、子どもを育てる、子育てに対して貢献できることといっ  
たら、当然、医学的な見地に立ったことになると思います。ただ、そういつ  
ても、かなり範囲が広いように思われます。例えば病気の子どもを診るのは当  
然ですけれども、予防医学、子育て、食育、災害時はどうするのか。今回の  
震災では放射能の問題がある。そういうときはどうするのか。委員会ではそ  
ういう話題も出ています。立場上そういうところから発想を起こして子ども  
たちを支援できると思っています。

ちなみに医師会の組織の中で、子どもに関する委員会は、私が今、委員長  
をやっています子育て小児育成保健委員会、これは就学前の小さなお子さん  
たちを対象にしています。就学以降は学校保健委員会という組織があります。  
私は学校医としてはもう20何年間やっています、かなり古参なんです、  
就学前に関わるのは今期が初めてですので、いろいろ皆様のご協力をいた

だきながら、先ほども言いましたとおり医師会として協力、支援をしていきたいと思っています。

(平田委員) 商工会議所の平田です。

私だけがどうも場違いのようでして、皆さんは子どもを育てるところでかかわっていますが、私どもは何もすることがございませんで、あえて言うならば、チャレンジ・ザ・ドリームで毎年5日間ほど子どもさんをお預かりしていることでしょうか。

子どもさんは5日間で非常に大きく成長される。大人に近くなってくる。私は中学を卒業すると、もう心身ともに、頭脳、能力、体力もすべてが大人だと常に言っているんです。だから中学を卒業すればいつでも社会人として仕事ができるように励め、勉強しろということを言っています。そういうことをよく理解していただいて、本当に5日間で大きく成長しています。人間関係をうまく、今までのような甘えはなくして、立派に自立する力を持ってこられる。

本当にこの5日間というのは大事な5日間だと、私は思っていますし、特に不登校の生徒がこれをきっかけに学校に登校するようになったという話は何度も聞いています。彼らの方がむしろ社会に飛び込むことがうれしいようで、また、学校に行くよりも社会人として、みんなと一緒に働く方がうれしいようで、それをきっかけに人間として成長していくということが感じられ、非常にそういう面ではうれしく思っています。

私どもがお手伝いするのはそれくらいですが、よろしくお願いします。

(高橋委員) 皆様こんにちは。私は、平成23年度私立幼稚園協会PTA連合会の会長を務めさせていただいています高橋美枝子です。

先ほどVTRにもあった、私立幼稚園等保護者負担軽減制度を利用して、娘の幼稚園の入園を機に江戸川区に引っ越してきました。この制度のおかげで娘も本当に幼稚園が大好きで、親子ともに楽しく生活しています。保護者の立場でこの会に参加させていただいて何ができるのかわかりませんが、一生懸命努めますので、どうぞよろしくお願いします。

(田島委員) こんにちは。小学校PTA連合協議会の会長を務めます田島と申します。

学校関係ですので、もちろん今年のテーマとしては安心と安全ということを中心に小P連として検討、教育指導ということを考えています。私は春江小学校でPTAをしています。春江小学校はすくすくスクールの人数がかなり多いのです。登録は何百人としまして、実際毎日150人ぐらいいは来ているんじゃないでしょうか。2クラス使って、外でも遊んで、座るところがないくらい盛んです。一昨年ですが、文化庁の補助金が出たので、囲碁のプロをよんで教えてもらったんです。その時もかなりの人数が来て、みんな一生懸命やっていました。そういうことも含めて、すくすくスクールはこれからもいろいろな面で子どもたちのためになるんだろうなとつくづく思いました。

これからもどうぞよろしくお願いいたします。

(岩 楯 委 員) 皆様こんにちは。前期から継続して、公募でこちらに参加させていただいている岩楯と申します。

子どもが3人いまして、一番上と一番下がちょっと離れていますが、一番下が小学校6年生です。PTAの役員が終わって今は、一之江小学校のすすくすくスクールのサポートセンターで役員をしています。

今年は体育館が耐震工事で、校庭にも資材が入ったりするので、9月30日まで校庭、体育館がなかなか使えません。そこで、この夏すすくすくに来る子どもたちが教室とほんの少しの校庭で安全に遊べるように、何かやってあげたいという気持ちでいます。民生委員の地区委員の方をはじめ、地域の方々に来ていただいてやっています。

今年はちょっと暑いので、子どもたちが元気で過ごせるように私たちも努力したいと思っております。

(仁志川委員) こんにちは。公募区民の仁志川明美です。

私は、小学校1年生の男の子と今年幼稚園に入った男の子、2人の母です。やっと下の子が幼稚園に入ったことで、24時間体制の子育てから解放されて、少し自由になったところです。

江戸川区の子育て支援がとても充実しているのは周りの人からもよく言われますし、私自身もたくさん恩恵を受けていて感謝しています。それで何かできればと思ってこちらの会議に応募させていただきました。そういったことで江戸川区に対する要望は特になかったのですが、今回放射能、放射線について、子育てしているお母さんたちは一番心配していると思います。当初の予定ではそういう議題はなかったのかもしれないのですが、子育てしている方の心配を少しでも軽くするために、話題にさせていただければなと思います。

(田 澤 委 員) 皆様こんにちは。私は、区の私立幼稚園38園の私立幼稚園協会の会長を、今年で8年させていただいています。今私立幼稚園38園のうち、36園で預かり保育をやっています。幼稚園は皆さんご存じのように、2時か3時には子どもがいない状況だったのですが、大体5時から6時ぐらいまで希望者の園児をお預かりしています。そのほかに早朝保育といって、7時半から預かっている幼稚園もあります。土曜保育といって、土曜日にも預かっている幼稚園もあります。それから長期の夏休み、冬休み、春休みもお預かりする幼稚園もどんどん増えています。うちの幼稚園でも夕方5時まで、預かり保育を平成12年から始めています。また、夏休みの16日間預かり保育をやっております。

それから江戸川区の公設民営、要するに公立の保育園を民営化するための受け皿となる社会福祉法人えどがわを、私立幼稚園と私立保育園の設置者・園長の代表者で平成14年3月に立ち上げ、今年で10年目になります。その会長をやらせていただき、今保育園の数が12園、それから保育士や職員が300

人近く、かなり大きな単位になっています。来年は2園、小松川と清新町で公設民営を計画しています。

私立保育園と私立幼稚園が一つになって一つの事業を展開するというのは、たぶん江戸川区だけではないかと思えます。場所によっては保育園と幼稚園は仲が悪いというところも結構ありますが、江戸川区では会議も一緒にできるし、こういうふうにも運営もできる。今、国が進めている新システムの、幼稚園保育園の一体化は、私個人としては、住み分けをきちんとすればきちんとした施策ができるんじゃないかな、という気がしています。

(青木委員) 下小岩小学校の校長の青木です。下小岩小にはつぼみ保育園の子どもたちがたくさん来ています。つぼみ保育園ができて数カ月後に下小岩小が建ち、同じ80周年を迎えようとしています。今は、きれいな学校、園になりました。

学校には、今までも随分応援団の方がいましたが、今年から学校応援団を全面展開しようということで、それを統合施設で一つの組織として展開していこうということになっています。本当に地域の方にたくさんボランティアで参加していただいて、特にすすすくスクールのような事業の中で力を発揮していただいています。これからますますそういうことが広がっていくのかなと思います。

中学校で行っているチャレンジ・ザ・ドリームでは、小学校にもたくさん来ていただき、勉強させてもらっています。そういうことで、地域とますますかかわり合いを持って、学校を地域に広げていこうと思っています。

(瀬谷委員) 江戸川区歯科医師会事務長の瀬谷と申します。本日は代理で来ています。乳幼児に関していえば、区立保育園、それから一部の認証保育所の健診等をさせていただいています。乳幼児のお子さんは、圧倒的に虫歯が少ないんですね。多分お母様方の努力のたまものなんでしょう。ただ、歯周病がちょっと増えてきてまして、歯科医師会では乳幼児の歯周病に対する取り組みをしているところです。

今日皆様からお聞きしました貴重なご意見とお話は、戻りまして本来の委員の古川にしっかりと伝えさせていただきます。

(山本委員) 皆さんこんにちは。私は、青少年育成アドバイザーということになっていますが、これは内閣府が所管していた青少年育成国民会議というところが全国で研修を実施して認定するもので、青少年育成活動の半分プロみたいなものです。私は、江戸川区の中でずっと子ども会の活動をしていて、ほかに青年サークル活動、青年団体連絡協議会という組織をつくって活動していました。

そういう関係で、青少年のこと、子どものこと、幼児のことを、様々な年代の中で勉強してきました。そして今気がついたのは、子育てで一番大事なのは、ゼロ歳から1歳までの間だということが指摘されて久しいけれども、実際にはそのことが余り浸透していないということです。3年ほど前か

ら、23区のあちこちで1回、2回という形でゼロ歳児保育の何がどういふふう  
にいいことがあるのかという講習会をやっております。

(長尾委員) こんにちは。私立保育園保護者連絡協議会理事長の長尾良子です。

今現在40園の私立保育園がありますが、その保育園に通っている保護者全  
員が会員となりこの保護連活動をしています。先ほど私立幼稚園園長会会長の  
田澤委員がおっしゃっていた公設民営の保育園に我が子は通っています。  
和太鼓や英語などを取り入れた保育をしていて、少し幼稚園的な教育を取り  
入れていただいているおかげで、我が子はとても大切な幼児期にすばらしい  
財産をいただいていると実感しています。ありがとうございます。

ただ、先ほどビデオで出ていたファミリーサポート制度や保育ママ制度、  
これがあまり働くお母さんに浸透していないようです。朝の7時半から夜の  
7時半まで預けた後にその後の保育をどうしようかと悩んでいるお母さんや、  
育児休暇が半年しかとれなくて、その後の子どもの保育所をどうしようと悩  
んでいる方、保育ママを知らない方が多いことに最近気がついたんです。江  
戸川区もいろいろな形で宣伝していると思いますが、何でお母さん方にこれ  
が浸透していないのかなと自分でもちょっと疑問に思いました。実際保護者  
の方とお話しすれば、私も提案とかアドバイスができるのですが、この制度  
の宣伝というのをもう少し広げられたらいいのではないかなと思いました。

(中岡委員) こんにちは。中学校PTA連絡協議会会長の中岡です。

今回初めて委員になりました。私はもう子どもが成人し、今一番下の子が  
中学校3年生、子育て云々は女房に任せていた感じの父親でございました。  
もともと葛飾区に住んでいたのですが、江戸川区に引っ越してきた理由が、  
先ほど説明にありました地域のイベントや給食費や幼稚園の補助、そういつ  
た面ですごく援助してくれる区だということによって引っ越してきました。かれ  
これ15年ぐらい前だと思います。ただ引っ越してきて思ったのは、子どもにと  
ってすごくいい環境であるとは思いますが、新小岩駅前の繁華街も何とかし  
ていただきたいなということです。あの辺の整備もいろいろ中学校としては  
考えていますが、なかなか進みません。

それと中学校では今年度から33校、学校応援団といいまして、すくすくみ  
たいな感じかと思うんですが、PTA会員をはじめ、地域の皆さんが中学生  
と一緒に学校の要請に応じて、協力していくという学校応援団が立ち上がり  
ました。そういった面で子どもたちと触れ合う機会がこれから増えると思  
いますので、今後ともよろしくお願いします。

(渡辺委員) 皆さんこんにちは。健康部長の渡辺です。

子育て応援の会ということですが、私たち健康部は、健康サポートセンタ  
ーを中心にしながら、妊娠をした時点からかかわり合って、出産、それから  
育児と、一連の流れの中で保健師と専門職が様々な機会をいただきながらか  
かわっていくという仕事をしています。

特に今年度から妊娠届を出していただいたときに、子育てに対する不安があるかないか等アンケートをとる形でお聞きし、子育てに不安のある方についてはきめ細かく対応していこうという取り組みをしています。妊婦の方に対しても訪問等も行いますし、赤ちゃんが生まれた後、新生児訪問という形でかかわります。その新生児訪問の中でも産後うつの状態がどうであるか、ということについてもきめ細かく把握をする形で、新たに質問票等を活用しながら、その世帯の子育てについての状況を勘案しながら、不安のある方にはしっかりとサポートをしていくという体制を強化しました。

そういう中で、やはりいろいろな側面から子育てに不安がある、子育てを楽しめないという方はいらっしゃいます。そこから児童虐待という非常に厳しい場面につながることもあります。そういった方たちをいかにサポートしながら、虐待が少しでも起きないように、そういう支援を子ども家庭支援センターや、様々な機関と連携をしながら進めていきたいと考えています。

子育てが楽しいと、1人でも多くのお母さん、お父さんに思っていたできるように我々が少しでもお役に立てればと考えているところです。

(三輪委員長) ありがとうございます。まだ少し時間がありますが、追加でおっしゃりたいという方がいましたらいかがでしょうか。

(田中副委員長) それでは、まず初めに、この会議が区からの委嘱で委員になっているということで、区の施策に対してどうかということがあるのかなと思います。委員の互選もそんなことを感じたのでお引き受けしました。

今皆さんのお話を聞いていますと、様々な立場の方が、様々な活動をしたり、考えを持っていることが分かります。それを地域の中でまとめているのが地区委員会になるかと思います。地区委員会では、それぞれの特色をどういうふうにか活かして協力し合えるような雰囲気をつくっていくか、それが一つの大きな課題なんです。

そして、自分のところだけで解決できる問題ばかりではなくて、むしろほかのところを利用したほうがいいものいっぱいあります。それをどう出しかも課題になっていると思います。江戸川区では18地区委員会があって、常にそういうことを考えて活動している。そこで、私は自分の団体をいかによくするか、そしてお互いに利用し合うかということが今一番大切じゃないかと言っています。

そんな気持ちで一緒に考えていければいいと思いますし、地域力を発揮するためには、それぞれが力を発揮できなければいけないと、そんな考え方で私はこの会に加わっていきたくて考えています。

いろいろな要求もあるだろうと思いますが、自分自身の会の発展、それがひいては子どもたちの健全育成になると思いますので、一緒に力を合わせていければありがたいと思っています。よろしくお願ひしたいと思っています。

(三輪委員長) 私も一言発言させていただきます。皆さんの自己紹介を聞きまして、乳幼

児期から小学校、中学校にかけて、あるいはもっと大きな青少年に至るまで手厚い補助だとか、保育の制度だとか、すくすくスクール、学校応援団、チャレンジ・ザ・ドリームなど、先進的な取り組みがあるということを確認ができたと思います。その上で、ただそういう制度をまだ知らない人たちにどう届けていくかとか、放射能の問題等、幾つか大きな課題も新たに見えたりしていますので、そういうこともきちんと議論をしていくことの必要性も確認できたと思います。今、田中副委員長が言われたように、地域の教育力とか、保育力、文化力といいますか、それぞれの持っているいいものを協力し合って、どういうふうにつなげていくかということも大事なテーマになっていくように思います。

それからもう1点は、皆さん自身が区民ですので、それぞれの立場でこの応援会議をPRしていただき、一人ひとりが意見を吸い上げて、それをこの会議の場所に積極的に反映していただくという役目をぜひ担っていただければありがたいと思います。

それでは、追加の意見はありますか。

(一 同) (なし)

(三輪委員長) それでは、今日はこれをもちまして第1回目の応援会議を終わりにしたいと思いますので、事務局に戻させていただきます。

(事務局) 今後の予定ですが、委員長から会議の運営のところでお話がございましたように、必要に応じまして委員長のお名前で開催のご案内をさせていただきますと思います。今後とも御協力いただけますようよろしくお願いします。

(三輪委員長) では、これで終わりにしたいと思います。